

江戸時代の忍城を歩く1 東から城内へ

江戸時代、忍城に通じる幹線道路は、館林から行田を通り、鴻巣へと至る日光館林道でした。街道は館林から利根川を渡って、羽生市川俣の関所から忍藩領に入り、現在の主要地方道佐野行田線とはほぼ同じルートを南下していました。そして、長野広小路から現在の桜町の商店街を抜け、小沼橋を渡り長野口から忍城下へと入っていきました。

当時の長野口は、小沼橋を渡った所が小島になっていて、そこから南側にもうひとつ橋を渡った所に長野口門が設けられていました。忍川の小沼橋脇には船着場があり、見沼代用水を経て江戸へと向かう舟運の起点になっていました。城下町の入り口で、街道と船着場につながるがっていたことから、長野口は人の往来が多く、幕末には番所や高札場が設けられたと伝えられています。

また、「忍城戦記」「成田記」などには、石田三成率いる豊臣軍が忍城を攻めたとき、この長野口で戦が繰り



沼橋門へと続く江戸時代の道路跡

広げられたと記されています。残念ながらこれらの書物は後世に記された軍記物であり、史実であるとは言い難いですが、古くから長野口が忍城の東の玄関口として重要な場所であったことは間違いありません。

長野口門から城下に入った下町は、愛宕神社と今はない長徳寺の門前町でした。桑名から忍に移った松平忠堯が、忍城初入場の際に、長徳寺・愛宕神社の境内で行列を整えたと伝えられています。恐らく行列は、現在の国道125号と同じルートをたどって本陣のあった本町を通り、現在の武蔵野銀行の前で新町通りへと曲がる日光館林道と別れて直進し、

商工センターの東側を南下していた忍城の外堀に突き当たると南に折れて新店通りに入り、枳形城門から城内へと入っていったのではないかと推測されます。

城内に入ってから、大手門を抜けて武家屋敷が並んでいた内行田の通りに出て南に下り、現在のドラッグセイムス行田中央店の所を西に曲がって、沼橋門から御三階櫓へと向かったと推測されます。

なお、近年の発掘調査で、現在の行田市民プール付近にあった沼橋門へと続く江戸時代の道路跡が確認されています。

(文化財保護課 中島 洋一)



う しろ みち 浮き城の径

う しろ みち 浮き城の径は、しやくしょ さいたまけんちほうちょうしゃ あいだ しきち 市役所と埼玉県地方庁舎の間の敷地を利用して、平成6年3月にできた遊歩道なんだ。日本庭園を連想させる池や小川、あすまやなどがあり、その周りにはサザンカやスイセン、クマザサなどの植物が植栽されているよ。

いまは、しみん みなさんのやすらぎの場として、とても親しまれているんだ。小川のせせらぎを聞きながら、いしだみ ゆうほう ある 石畳の遊歩道を歩いて、リフレッシュしてみませんか。

今月の表紙

11月11日、市役所周辺で開催された第33回行田商工祭：忍城時代まつり。忍城東門前の橋では、火縄銃の演武が行われました。映画「のぼうの城」で実際に使われた迫力満点の銃声に、訪れた誰もが圧倒されていました。

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい 植物油インキ

市報ぎょうだは 再生紙を使用しています